



まずは知ろう

あかつき訪問と 介護保険制度学習会



2025年は、「団塊の世代」が75歳以上になり、2030年には国民の約3人に1人が後期高齢者になると推計され、超高齢社会が進んでいきます。高齢者だけではなく、地域での単身者の増加も目を見張る状態となっています。社会的な孤立は生活の中で大きな不安となっています。昨年から行ってきたまちネット寄居でのヒアリング(アンケート調査)でも私たちの暮らす地域社会での現状が見えてきました。

今不安と感じていることとして挙げられたことは、

- 世代を問わず経済面の事が挙げられました。
- さらに、世代が上がるほど健康面での不安の声が聞こえました
- 家の保守管理が大変。もっと家の修繕に幅広い助成の仕組みが欲しい。
- 自動車の運転が出来なくなった時の不便さ。町のデマンド交通では解決できない。
- 地球環境破壊による農業等に対する影響や、気候危機への不安。
- デジタル化がすすむ事の懸念。

等がありました。誰もが実感することと思えます。また、同時にこれからこんな仕組みがあったらいいね、欲しいねとして挙げられたことも多くあります。その可能性を探るためにも、まずは、実態を知ることが目的にい

くつかの企画をしました。4月、寄居町で一番早くグループホームを立ち上げた「あかつき」の見学と介護保険の基本的なレクチャー。6月、介護現場からのお話として「介護保険の今」の学習会を行いました。

グループホームあかつき の見学会から



あかつきは、高齢者の在宅介護サービス(訪問介護、訪問看護、通所介護、居宅介護支援)、そして小規模多機能居宅介護(通いを中心に訪問やお泊りサービスを行う)、終の棲家であるグループホーム、互助ハウス、など多機能な取り組みを行っています。また、施設内で大量に出る紙おむつを軽量無害化して可燃するなどの画期的な取り組みも行っています。参加された方から

の感想を一部掲載します。

●介護という言葉が日常化する今日ですが、実際には知らない、よくわからないのが現実です。最初にあかつき代表の堀沢さんから説明を受けました。一口に介護と言っても十通りのサービスに分かれていて、それぞれの介護状態によりサービス内容が分かれています。自然環境の中、自由気ままにゆったりという言葉通りに通所されている皆さんがのんびり過ごされていました。紙おむつの無害化処理の機械も早くから導入されていてとても感動しました。 Y.K

●利用する人のニーズに合わせた介護の取り組みに救われる気持ちです。敷地も広く屋根には太陽光発電。また紙おむつの無害化から、肥料化までと自然への配慮にも取り組まれています。さらに敷地内には、一時預かりとしての納骨所も用意されて、人生の選択肢が一つ増えました。

大島恵美子

百聞は一見にしかず。様々な情報の洪水におぼれそうな社会、インターネットの検索で何でも分かったような錯覚に陥る危険のある現代人。子どもから大人まで実体験が不足していると言われている社会。やはり足を運び、実際に見て、聞いて感じることの大切さを痛感する。

雑木林の緑に囲まれ傾斜のある地形ではあるが、四季折々の豊かな自然を存分に体感できる。優しい風を感じるあかつきのグループホーム関連の施設だ。手作り感いっぱいの建物も施設内の設備も 20 年以上の歴史を感じる。施設を利用されている高齢者の表情はとても穏やかだ。食材は、地域からの新鮮野菜の寄付も多いという。遠方からの入所者だけではない、近隣からの通所、入所も多い。先進的な取り組みにも驚かされた。高齢者向け互助ハウス(シェアハウス)、紙おむつの軽量無害化後に可燃、無煙薪ストーブの設置、太陽光発電から緊急時用の蓄電等々、足元にこんな施設があることを初めて知った。それにしても、介護士不足の昨今、一人のヘルパーさんを業者さんに紹介してもらうのに 100 万円近くかかるという。驚きだ。

大北秀子



高齢者向け互助ハウス (シェアハウス)



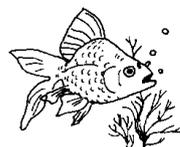
明るい施設内



紙おむつの軽量化機械



紙おむつがこんなペレットに



介護保険の今 学習会

2027年介護保険改正が行われます。過去7回の改正が行われ、その制度は財政難を理由として改悪の方向へと変わってきました。2025年は介護保険崩壊元年ともいわれています。介護保険が制定された当時は、大きな期待と希望を感じることができたと思います。女性たちに任せきりだった介護の社会化は、長年の夢であり希望でした。しかし現実には、理念からどんどん遠ざかってきました。改正の都度課題が膨らみます。そんな中で、寄居町での介護保険制度はどんな状況なのかを学ぶ学習会を開催しました。

講師として、ネット会員でもある松本浩美さんにお話をいただきました。



介護保険利用の流れを学んだよ

想定外の大盛況だった学習会(介護に携わるプロのお話し。にぎやかだったのよ~懐かしい顔、初めましての顔もあり。老後の心配の話し等々で盛り上がり!)そしてその時メモもしたけれど、どーも記憶がかすんできて...

そこで、介護保険制度を扱っている大里広域市町村圏組合(osato-k.j)>介護保険を検索!初めて~(≧▽≦)

前置き *65歳以上 訪問介護・訪問看護・福祉用具の貸与・通所リハビリ・デイサービス、住宅改修への補助等のサービスがある。

**申請からサービスまで関わる「介護保険サービス提供事業者一覧」が大里広域市町村圏組合のWEBに掲載されていて、訪問介護、訪問入浴介護、訪問看護、訪問リハビリ、通所介護の事業所を各サービスごとに一覧表にしてある。

1. 申請 本人、家族。地域包括支援センター(川北地区の人は埼玉よりいい病院、川南地区は保健福祉総合センター寄居町社会福祉協議会)、居宅介護支援事業所、介護保険施設に依頼も可。

★申請をすると介護保険課から主治医に「意見書」の作成を依頼するので、主治医や病院担当者にまず相談とある。

2. 要介護認定の結果通知(要支援1~2、要介護1~5)★介護度の区分とその状態については「介護・老後で困る前に読む本」吉田筆 NHK出版の52ページが分かりやすい。寄居図書館にあります。

3. ケアプランの作成 居宅介護支援事業所(ケアマネージャー)に相談する。

4. サービスの利用開始

なかなか複雑~。更に学習会の講師さんの話によると、この先、介護サービスは縮小への制度改正が予定されているらしい。また介護保険料も令和12年度に介護保険事務が大里広域から町単独になると値上がる可能性もあるらしく、海外の戦争、酷暑だ、お米だ、物価高だと心配の種は尽きないが、介護制度もウカウカしていられない...。最後に、今年の6月に生活クラブ共済連から国に「2027年の介護保険制度改定に向け要望書」が提出されている。制度改正について理解するのに大いに参考になると思う。(KY)



訪問介護が消える

実際に介護の現場にいる松本さんを講師にお招きして介護保険と介護についてお話を伺いました。

ネット会員以外の方の参加もあり、介護保険を利用する側の意見も聞くことができ有意義なものでした。

松本さんは、ヘルパーの仕事として訪問介護がとても重要だと認識して熱い思いを持っています。

しかし、現状では仕事の制約が多く細かいものになっている為、利用者さんのちょっとした頼み、例えば電球が切れたので換えて欲しいとかいう頼みはきけないそうです。何故なら介護のヘルパーの仕事では無いから。

ほんの少しなら出来ると思っても規則があるので断らざるを得ません。仕事にルールは必要ですが利用者さんはがっかりもするしヘルパーは申し訳ないと感じるでしょう。

また訪問介護の仕事は交通費が出ない、利用者宅への往復にかかる時間はカウントされないなどヘルパーの仕事のなかでは敬遠したい面もあります。

しかしながら複数ではなく個人と向き合うことで、きちんとコミュニケーションがとれるメリットはあるし利用者は自宅なのでリラックスできるのもメリットだと思います。

せっかくの介護保険が利用しにくいものなのはとても残念です。現場の意見を取り入れ改善していくことが必要でしょう。

会議室で決めた規則を介護の場で生きる規則にするためにも、その都度意見を集め、改訂の地道な努力を重ねなくては行けないし、訪問介護の従事者の業務に見合う報酬や待遇についても問題は山積していると考えます。

Y.M



学習会風景

information

ネット会員募集 お知らせ

毎日の暮らしの中で、感じていること、困っていることなど皆で話すことからスタートです。私発が原点です。安心して暮らせる地域を私たちの手で。ぜひ、お仲間になってください。

問合せ：大北（080-5933-7154）

※ショートメールでもOKです。



編集後記

夏休み、念願の沖縄の地を踏んだ。戦後 80 年の節目で今年に入ってから戦争関連の特集、ニュース報道が多いと感じる。美ら海水族館はもちろん、ひめゆりの塔、平和祈念資料館へも足を運んだ。静かな海が広がる沖縄でかつてむごい戦争があったとは思えない。南の島特有の植栽、海の色、食材、今帰仁村（ナキジン）の海辺は素朴な昔ながらの民家が広がる。関東とは全く異質の文化がある。感激だ。この地に立って、80年前の沖縄を、そして米軍基地が居座る現在も、沖縄を決して忘れてはいけないと強い思いに駆られる。

今も戦火が絶えない地上にあって、あれほど多くの人たちが簡単に命を落としてしまった歴史に全く反省の色がない。歴史が繰り返される脅威。今あるこの平和が徐々に脅かされてきている現実。絶対に食い止めなければならないと強く思う。2022 年の杉並区長選挙の映画の中で語られた「国を恐れない自治体」を作っていく。国家権力に屈しない、地方自治をどれだけ強くしていくか、私たちネットワーク運動の大きな目標だ。

H.O

